

乗仏教再興の拠点にしよ
うと、同国中部ナグプ
ール近郊で建設を進めて
いた同宗寺院「インド禅
定林」の大本堂がほぼ

仏教の祖国で仏教再興を

インド人僧、大本堂建設

天台宗も協力「平和祈る拠点に」

天台宗の総本山・比叡山延暦寺（大津市）で10年以上修行したインド人僧、サンガラトナ・マナケさん（45）が、母国の大

完成し、落慶法要が営まれた。体験もある同寺の僧侶、堀澤祖門さん（77）現・叡山学院長Ⅱの弟子に。マナケさんはナグプール生まれ。9歳で延暦寺に留学し、インドで修行日回峰行も満行した。

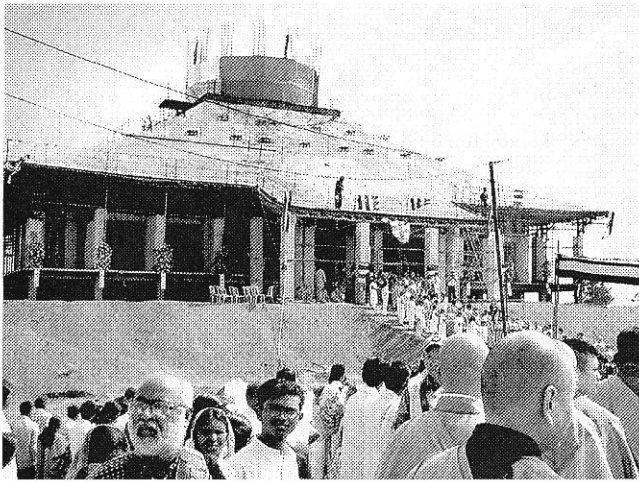
1ルで1956年10月、

仏教はインドが発祥の地だが、同国ではこの800年近く消滅の危機にあった。しかし、ナグプールで1956年10月、



前サンガラトナ・マナケさん提供
要するマナケさん提供
法要するマナケさん提供
落慶するマナケさん提供
のあいさつマナケさん提供

カースト制下で厳しい差別を受けてきた「不可触民」の解放運動指導者、アンベドカル（1891〜1956）が先頭となって、50万人ともされる仏教への集団改宗があ



ほぼ完成したインド禅定林の大本堂—堀澤祖門さん提供

り、再興の機運が高まっているという。

とはいえ、マナケさんの87年、ナグプール郊外に禅定林を開設し、布教

寺院はわずか。そのたや孤児院運営などを続けてきた。その20周年にあわせ、天台宗などの協力も受けながら大本堂を建設。2月8日、落慶法要にこぎつけた。マナケさんは「菩薩僧を養育し、世界平和を祈るよりどころになるため精進したい」などと話している。

大乗仏教は釈迦の死後の紀元前1世紀以降、インドで生まれた教えで、在家の信仰や大衆救済を重要視する。堀澤さんは「すべての人に仏性がある」と考え、最もアジア的ともいえる大乗仏教をインドに移植してくれるのでは」とマナケさんに期待している。【服部正法】